

～All for one, One for all.～

光 の 家

LIGHT HOUSE WITH THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設

東京光の家会報

— 177 号 —

2014 年 4 月 25 日発行

悪しき者のはかりごとに歩まず、罪びとの道に立たず、あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。このような人は主のおきてをよるこび、昼も夜もそのおきてを思う。このような人は流れのほとりに植えられた木の時が来ると実を結び、その葉もしほまないように、そのなすところは皆栄える。

旧約聖書「詩篇」

第一篇一～三節



今年も満開になった新生園の桜と利用者

会報 五言

一、寒い冬だったが、梅の花も過ぎ去り、あつという間に桜の花が満開になった。自然の営みは正確無比だ。

一、二つ二つの平凡な事が積み上げられて、偉大な事に育って行く。だから小事にも精神を込め全力をつくしてあたって行こう。

一、わが東京光の家にも五番目の施設が「就労ホーム」として誕生し一年たった。今年一年たち、利用者も職員も逞しく育ちつつある。

一、まだまだ至らぬ未熟な点が一抔ある。どうか変わらぬご指導ご鞭撻を下さい。

一、間違いがあったらお許し下さい。そんな中でも、正直に真直に進みたい。

光の家就労ホーム

カナンの名について

社会福祉法人東京光の家 監事 藤田 洋



「光の家就労ホーム」が開設された。料理とコーヒーの店「カナン」と命名された。地域の方に食事サービスがついた形でこ奉仕したいという願いをもって始められたと聞く。食事もおいしく、外の景色もいいという評判は大変結構なことである。

そこで店名の「カナン」について些か述べてみたい。カナンとは、今のパレスチナの地方名のことである。アジアの西部にあり、その西に地中海がある。古くは旧約聖書の創世記に

ある。「主はアブラハムに言われた。『あなたは生れ故郷父の家（ウル）を離れて、わたしが示す地（カナン）に行きなさい』（二一章一節～八節）。それからカナンの地はユダヤ人の定住の地となった。しかし別名はイスラエル人ともいうが、彼らは紀元前一七〇〇年、カナンが饑饉によってアブラハムの孫ヤコブは七〇名の家族を連れエジプトへ下った。それから四一〇年を経てイスラエル人はエジプトでの奴隷的生活からの解放を求め目指すカナンへの旅を始めることになった。その経緯は出エジプト記にある。「それゆえわたし（神）は降つて行き、エジプト人の手から彼らを救い出し、この国から、広々としたすばら

しい土地、乳と蜜の流れる土地：へ導き上る」神から言われたモーセを指導者としてシナイ半島の旅は続いた（三章八節）。それをT. E. フレットハイム著（出エジプト記の注解書・小友聡訳）は、神がイスラエルを導き入れるカナンの地のことに言及している。「神による救済の行為は単に人が抑圧状況から解放されるということだけではない。それは新しい命と祝福の場所である！神は、贖いはしてもカオス（混沌）の荒野に置き去りにするような中途半端な仕方ではイスラエルを捨て置くことではない。神の解放は最終的には何かからの解放だけではない、何かからの解放であつて、民を贖いから創造へと至らせる。この土地の贈与はアブラハムに与えられた約束の成就であり、この領域は本来、ダビデ王朝の領土である。これはユートピアではない。しかし神の歴史的目標は創造的な結末にある。彼ら

は『主の園』に向かう途上にいるのだ（九九ページ）。カナンとは旧約聖書によれば、今述べてきたように深い意味をもっている。現代的にいうなら「神の国」の意味をもっている（聖歌六四二番）。カナンとは「主の園」であり、それに向かう途上に私たちもあると説明をしている。料理とコーヒーの店カナンは、光の家就労ホームである。来客に仕えるのと仕えているといいながら、来客に仕えられているのではない。それは「おいしかったですよ」といわれるとカナンの職員は嬉しさと慰めが与えられ、更に励まされるものである。あのカナンの地を目指し旅するイスラエルの民は、モーセを先頭に神に仕え互いに仕え合うことなしにカナンに入ることはできなかったであろう。苦節をもつて働く光の家就労ホームカナンに祝福を。



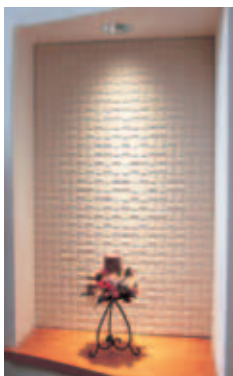
出典：聖書（発行・日本聖書協会）

～カナンについて～

カナンとは、パレスチナ及びシリア南部の古名。聖書では「乳と蜜の流れる場所」と描写され、神がアブラハムとその子孫に与えると約束した土地であることから「約束の地」とも呼ばれる。



大勢のお客様で賑わう「カナン」



桜が満開の季節を迎えた「光の家就労ホーム」

ぶらりお立ち寄りどころをご紹介します！

ひのみせ セレクション

キッチン・カフェ・カナン

Kitchen & Cafe Canaan

リーズナブルでおいしー！

福祉団体「社会福祉法人 東京光の家」の「光の家就労ホーム」が運営している、セルフサービス式のおしゃれなカフェレストランです。



JCN 日野ケーブルテレビの情報番組とその情報誌『HinoVoice』4月号で「カナン」が紹介されました。（『HinoVoice』4月号より）

第一回 点字教室



まだ寒い三月一日の土曜日に第一回目の「点字教室」を開催いたしました。

地域貢献活動の一つとして、視覚障害者の生活をより一層身近に感じてもらうと、年間を通して地域の方々に紹介する企画をしてきました。今回はその

一環として、視覚障害者のコミュニケーションツールの一つとしての「点字」を知ってもらおうと企画しました。

時季的な事、点字教室という難しそうな内容、当日は雨も降り、参加も少ないのではないかと心配しましたが、小学生八名を含む一五名の参加がありました。特に親子で参加されるケースが三組もあり、賑やかな教室となりました。

簡単に点字の基本的な仕組みと一緒に学んだ後に、点字を使った伝言ゲームやカードゲー

ムを通して点字を打ったり読んだりする事で、より親しみやすいものになった様子でした。特に、小学生の皆さんは、たった二時間の中で、読み書きができるようになり、点字でのやり取りができるくらいまでになりました。

(光の家神愛園 支援課

主任 小坂 鑑)



点字っておもしろい!!

ボランティアの皆さんに支えられて

三月九日に日野社協ボランティア交流会で「正秋バンド」が演奏をさせていただきました。

日頃お世話になっているボランティアの皆さんに向けて感謝の気持ちを音楽という形で伝えられたらと思い参加させていただきました。現在ボランティアで活躍されている方に加え、これからボランティアの活動を

始めたいという方が集まり、活動のやりがいや苦労などを話し合って交流を深めました。

演奏の依頼をしてくださったのは新生園でいつもお世話になっているボランティアの方です。実はこの会の前日にも新生園に来て下さっていました。会場では日頃光の家でお世話になっているボランティアの方も何名かお見かけしました。「演奏楽しみにしているよ」「また応援に行くからね」と声をかけ

ていただいて、演奏前の緊張が和らぎ、メンバーもほっとした様子でした。

感謝の気持ちを伝えたいという思いでしたが、逆に声援をいただいて元気をもらいました。ボランティアの皆さんの力を改めて感じた一日でした。

(光の家新生園 訓練課

狩野 麻衣子)



感謝を込めて歌う「正秋バンド」

平成二六年度

新任職員紹介

桜咲く四月、東京光の家に五名の新任職員が新たに加わりました。皆さん元氣一杯、ガッツあふれる若者です。どうぞよろしくお願い致します。

光の家新生園 行動訓練係



武元 美和

国立障害者リハビリテーションセンター学院卒

光の家栄光園 生活支援係



細川 翔太

東京経済大学卒

光の家栄光園 作業2係



野口 美香

東京福祉大学卒

光の家神愛園 生活係



佐々木 健吾

桜美林大学卒

光の家神愛園 生活係



小泉 昂輝

武蔵野大学卒

永年勤続表彰

今年度も「職員新年度の集い」にて永年勤続者表彰が行われ、勤続年数に応じて、賞金とリフレッシュ休暇が付与されました。

◆三五年勤続表彰

光の家栄光園課長

吉永成子

総務部総務課課長

大堀五晴

光の家神愛園

早見勝典

◆二〇年勤続表彰

総務部食事課課長

木戸場健二

◆一〇年勤続表彰

光の家就労ホーム主任

情野直人

光の家新生園

日下正美

光の家栄光園

佐藤恭彦

総務部食事課

榎島伸一



永年勤続表彰者

同行援護従業者養成研修 受講生募集（東京都指定研修）

～視覚障害者との歩き方・援助の仕方を学びませんか～

【研修期間】平成26年6月2日(月)～ 6月15日(日)

通信期間：平成26年6月2日(月)～ 6月15日(日)

通学期間：平成26年6月14日(土)、15日(日)の2日間

【場 所】東京光の家 地域交流センター 研修室他

【費用】17,000円 【定員】20名 ※定員になり次第メ切

【研修修了者】同行援護従業者の認定資格を取得

【お問い合わせ】東京光の家 TEL：042-581-2340



平成二五年度 締めくくりの会

東京光の家の各施設では例年

三月末に、保護者代表、ボランティア等の関係者の皆様をご招待し、利用者、職員が一堂に会する年度を締めくくる会を開催しています。それぞれの会の名称は神愛園が「感謝会」、栄光園は「みのりの会」、新生園は「納め会」、そして今回はじめて行われる光の家就労ホームの会は「結の会」と名付けられました。



一年の活躍を表彰されました
(神愛園「感謝会」)

第一部の式典では田中理事長、石渡常務理事、各施設長、

ご来賓の皆様のご挨拶の他、利用者の表彰、訓練修了の報告等が行われ、その後の会食と企画(音楽・演劇等)では皆で楽しい一時を過ごすことが出来ました。出席者一人ひとりが感謝をもつてこの一年を振り返り、新しい年度に希望を抱く、素晴らしい行事となりました。



聖書朗読を立派に務めました
(新生園「納め会」)



楽しい演劇を披露し、皆で楽しみました
(栄光園「みのりの会」)



若さあふれるダンスで盛り上げました
(就労ホーム「結の会」)

「秋元梅吉の祈り」 第三九回創立者 秋元梅吉追悼集会

二月七日に三九回目の追悼集会が行われました。今年は昭和三八年の春の集会でお話された「汝の父と母を敬え」という講話のテーマを聞き、秋元先生の力強い言葉を感じ、その後田中理事長が「秋元梅吉の祈り」という題でお話しされました。秋元先生の祈りによって光の家ができた事、神様を信じるという精神が大切であり、その信仰が人生の最大の宝物であることを学ぶ事が出来ました。

(光の家神愛園 支援課
主任 小坂 鑑)



創立者を偲ぶ田中理事長

桜満開！「入所式」

平成二六年度も、四月一日から四日にかけて、各施設で「入所式」や「活動開始式」が行われ、本格的な活動がスタートしました。そして、今年度も光の家に新たな仲間が七名、加わったのです。

桜が満開となった一日は、「光の家就労ホーム」で四名の新しい利用者を迎え、四日は「光の

寄付者名簿

平成二五年一〇月一六日～平成二六年三月三十一日

なる利用者や自治会の代表から優しい歓迎の言葉を頂き、新しい環境での第一歩を踏み出しました。一日も早く、友達が出来る仲間の一員として、充実した生活、活動が展開していけるように支援していきたいと思ひます。

(光の家就労ホーム

ホーム長 中河原 達也)



光の家新生園「入所式」



光の家就労ホーム「入所式」

浅石 常勝様	米	三〇 kg	安積 義治様	コーヒーギフト	一セット
渡辺 祥子様	玄米	一八〇 kg	大谷 徳義様	みかん	一〇 kg
難波 豊様	官製はがき	一四一枚	石川 紀子様	りんご	二〇 kg
戸塚薬局様	胡麻麦茶(三五〇ml)	七十二本	福田 長吉様	冷凍庫	一台
	スポーツ飲料(二八〇ml)	四八本	平山日曜大工センター様	モップ棒	三本
井川 幸雄様	りんご	四三七 kg		モップ替糸	二個
河村 正様	カボス	一五二 kg		スポンジモップ	二本
七瀬 隆幸様	みかん	二〇 kg		自在ホーキ	一本
折茂 冬貴様	大根	四七 kg	城山鶏園	加藤泰文様	卵
	ねぎ	二二・二 kg			六四〇個
	白菜	一六・七 kg	加藤勝子様	八〇円切手	一〇枚
	もち米	三〇 kg	佐々木信也様	みかん	二九二 kg
松田 功様	梨	一五 kg	小園江康様	干し芋	一〇 kg
	りんご	一二 kg	船橋 敬様	ドラゴンフルーツ	一六・五 kg
	みかん	四〇 kg	坂本 武様	いよかん	一三五 kg
錦戸部屋	錦戸眞幸様	二四 kg	中西登三男様	箱ティッシュ	六〇箱
亀山 潔様	ジャガイモ	九・五 kg	石井 みち子様	米	三〇 kg
山崎 群治様	かぼちゃ	三九 kg			
宮田 俊晴様	みかん	二〇 kg			
小西 慶亮様	米	三〇 kg			
	妙子様	三三 kg			
	バナナ	三三 kg			

※紙面の写真は、すべての本人の許可を得て掲載させて頂きました。

スポーツキャスター

佐々木信也さん来園



楽しい野球のお話を皆楽しみにしています

一月一八日(土)、野球解説でお馴染みの佐々木信也さんが来園されました。例年、野球シーズン終了後に光の家を訪問していただき、その年のプロ野球の話題を楽しくお話していただきます。今回は大学野球時代の長嶋茂雄氏(巨人軍終身名誉監督)との楽しいエピソードも飛び出し、利用者の皆さんは興味津々。今年の講演も和やかな雰囲気の中、素敵な交流のひと時となりました。

新成人を祝う会



新成人として頑張ります
(田中理事長を囲んで)

去る一月二三日(月)、講堂において新たに成人された津上大峻さんと有山智美さんのお二人をみんなでお祝いしました。会は前年度に成人された代表の佐藤駿介さんが聖書を朗読し、その後、津上さん、有山さんがそれぞれの保護者への感謝の言葉とこれからの抱負などを述べられ、参加者一同から温かい拍手を頂きました。

(光の家新生園 支援課
主任 小倉 実知彰)

第七回 手さぐりの作品展



触って楽しい作品展

去る二月二日から一八日まで、日野市立とよだ市民ギャラリーを会場に、「第一七回手さぐりの作品展」を開催させていただきました。今回は「わたしたちのくらし」をテーマとして、日常生活を作品にして、展示致しました。悪天候の中、見学に来ていただき有難うございました。

(光の家新生園 訓練課
清水 康平)

ゝあとがきゝ

新緑のみぎり、つつがなくお過ごしのことと存じます。今回、平成二六年度に入つて最初の光の家会報一七七号をお届け致します。

光の家にも新しい園生・職員が入り希望に満ちています。そして今回は光の家の藤田監事に寄稿をお願い致しました。

昨年、開設した「光の家就労ホーム」の一階にあるカフェレストラン「カナン」の名前の由来について触れられ現代的にいうならば「神の国」の意味を持つこととして来客に伝え、最終的に神に仕えることの重要性についてお言葉を頂戴しました。

私どもは開設から一年経つた「光の家就労ホーム」が「カナン」を始め地域の方との交流の場となり今後ますます地域に根ざした施設となることを切に願いたいと思います。

(常務理事 石渡 健太郎)

発行 行 一九一〇〇六五
東京都日野市旭が丘一七七一
社会福祉法人 東京光の家
電話 〇四二(五八一)二三四〇
FAX 〇四二(五八一)九五六八
メール info@hikarinoie.org